



高等部卒業生の進路について

～卒業後の生活をイメージした進路選択・決定～

3月6日（木）に、高等部3年生12名は東部特別支援学校を卒業し、社会へ巣立っていきました。3年間で家庭、実習先、関係機関、学校とで連携をとり、無事に進路先を決めることができました。家庭において、卒業後に希望する生活や支援などについて具体的に考え、向き合ったことが進路決定という結果につながっています。進路先でも、学校教育目標である「元気に たくましく豊かな人」を大切に、充実した社会生活を送ることができるよう願っています。

高等部での進路指導は、1年生（1回（見学））、2年生（2回）、3年生（2回）と計5回の実習（見学）を軸として、進路選択・進路決定を進めています。5回の実習（見学）を終え、本人と事業所とのマッチングや家庭の状況、利用したい福祉サービスなど、様々なことを踏まえて進路を決定しています。早めの段階から高等部卒業後にどのような生活をしたいのか、どんな支援が必要かなど、具体的なイメージをもって関係機関と共有することで、よりよい進路決定につながる可能性が高まります。高等部段階ではなく、小学部、中学部からでも卒業後の生活をイメージすることは大切です。少しずつでいいので、情報収集をしていき、高等部卒業後の生活を考えていきましょう。

✽卒業生の進路先✽（全12名）※併用利用の人もあるため、卒業人数よりも多く事業所の数が記入してあります。

事業所の形態	事業所名（人数）
就労継続支援B型	ほほえみ＆みのり工房（1名）
生活介護	あおばの家（2名）、あぐれす（1名）、伊豆ふれあいデイサービスセンター（2名）、えがお（1名）、沼津虹の家（2名）、ひだまり（3名）、地球のかけら（2名）、マミーライフ（1名）、ミルキーウェイ（2名）
療養介護	にじ（1名）

移行支援会議について

～卒業後の継続的な支援体制を築くために～



3月10日（月）～14日（金）に高等部卒業生を対象に移行支援会議を実施しました。

この会議は、卒業生の今後の生活について、支援に関わるすべての関係機関で情報を共有し、連絡、相談、協力等が円滑に行われるようにすることを目的としています。

卒業生たちは学校教育を終えて社会人になるという大きな節目を迎え、生活環境が大きく変わります。新しい生活へスムーズに移行し、心身ともに健康で充実した人生を歩むためには、家庭、進路先、関係機関の支援ネットワークがとても大切になります。卒業生本人、保護者、市町の福祉課、相談支援事業所、進路先事業所、本校担任・キャリア支援課（※進路先が一般企業や職業訓練校等の就労関係の場合は、障害者就業・生活支援センターとハローワークも参加）が、切れ目なく継続した支援体制を築くことができるように、連絡・調整を行っています。

第1回は7月に行われ、卒業後の生活の希望や進路の方向性の確認を行いました。第2回では、進路先事業所を加えたメンバーで今後の生活について共有しました。